

7月は過去最高の1733万TEU

■世界コンテナ荷動き、累計は5%増

コンテナ荷動き統計を集計するCT S (Container Trades Statistics) のデータによると、7月の世界のコンテナ荷動き量は前年同期比4.5%増の1732万5100TEUとなり、月間記録として過去最高を更新した。中東情勢の悪化や米国の関税政策、パナマ運河の水位低下による制約など、不透明感が高まる中でもコンテナ荷動きは堅調に推移した。1～7月累計では前年同期比5.1%増の1億1580万TEUとなった。

中東情勢の悪化でインド亜大陸・中

東発着貨物は落ち込んでいるものの、サハラ以南アフリカの輸入が成長を牽引している。また、欧州の輸入も堅調に推移した。中国製自動車の欧州における需要拡大に加え、自動車専用船の船腹やコスト面の制約を背景に、一部の自動車輸送でコンテナ利用が進んでいることも寄与している可能性がある。アジア発の輸出は大きく伸びており、特にアジア域内航路に加え、欧州向けやアフリカ向けが成長した。

CTSは、「現在進行中の中東情勢

の悪化に伴う原油価格の上昇圧力や、変化し続ける関税情勢、パナマ運河を巡る制約などが、主要ルート全体に複雑さと輸送能力への負荷をもたらしている。しかし、現時点では世界全体の貿易量は縮小することなく、こうした状況に適応し続けている。2026年後半に向けて強靱さが維持されるかどうか、新たな障壁に直面する中で世界貿易の構造がどのように変化していくかを注視することが極めて重要となる」としている。